

### 03.スリ・マハ・マリアマン寺院



クアラルンプールのチャイナタウンの端に隣接した最古のヒンズー教寺院です。

1873年に、K.タンブーサミ・ピライによって建立され、当初はピライ家の私的な神社として使用されていましたが、現在はヒンズー教徒の寺院として使われています。

入り口の上にある5層に重ねられた南インドのヒンドゥー教寺院に見られるゴプラムと呼ばれる塔門は外の宗教施設と異なり色合いが数多く使われ装飾的な感じを受けます。

この塔門は22.9mあり、シヴァ神、象の頭を持つ神「ガネーシャ」、弓矢を持つ「ラーマ」、琵琶のような弦楽器を持つ「サラスヴァティー」など228体の神々が彫刻されています。

寺院内部は神聖な場所であり、土足はNGで、その雰囲気とデザインはヒンドゥー教の生き方の理想的な信条を象徴的に凝縮しようとしています。

ヒンドゥー教寺院には、火から水、自然界の描写から神々、女性的または男性的な性別から永遠で普遍的な性別まで、生命を生み出し維持する宇宙の要素がすべて揃っているとのこと。

実際に現地に礼拝に訪れているインド系のヒンズー教徒は厳格な装いで行っている光景を見て、このマレーシアの中にあるイスラム教、ヒンズー教、仏教等の宗教施設が各民族の心の拠り所となっているのが理解できました。

石川清郁